

# 目次

領域	単元番号	単元名	ページ	年間予定	学習日	復習日	理解度(○△×)
読解基礎	1	文学的文章①	4		/	/	○ △ ×
	2	文学的文章②	8		/	/	○ △ ×
	3	文学的文章③	12		/	/	○ △ ×
	4	文学的文章④	16		/	/	○ △ ×
	5	説明的文章①	20		/	/	○ △ ×
	6	説明的文章②	24		/	/	○ △ ×
	7	説明的文章③	28		/	/	○ △ ×
	8	説明的文章④	32		/	/	○ △ ×
読解標準	1	文学的文章⑤	36		/	/	○ △ ×
	2	文学的文章⑥	40		/	/	○ △ ×
	3	文学的文章⑦	44		/	/	○ △ ×
	4	文学的文章⑧	48		/	/	○ △ ×
	5	説明的文章⑤	52		/	/	○ △ ×
	6	説明的文章⑥	56		/	/	○ △ ×
	7	説明的文章⑦	60		/	/	○ △ ×
	8	説明的文章⑧	64		/	/	○ △ ×
古文・詩歌	1	現代仮名遣い①	68		/	/	○ △ ×
	2	現代仮名遣い②	70		/	/	○ △ ×
	3	詩歌・古文①	72		/	/	○ △ ×
	4	詩歌・古文②	78		/	/	○ △ ×
	5	古典①	84		/	/	○ △ ×
	6	古典②	88		/	/	○ △ ×
文法	1	文法①	92		/	/	○ △ ×
	2	文法②	96		/	/	○ △ ×
	3	文法③	100		/	/	○ △ ×
	4	文法④	104		/	/	○ △ ×

領域	単元番号	単元名	ページ	年間予定	学習日	復習日	理解度(○△×)
作文	1	スピーチなどの原稿を書く	108		/	/	○ △ ×
	2	資料を読み取って文章を書く	116		/	/	○ △ ×
	3	ディベート形式の意見文を書く	123		/	/	○ △ ×
	4	文章を読んで作文を書く	131		/	/	○ △ ×
	5	作文・表現	140		/	/	○ △ ×
	6	作文	142		/	/	○ △ ×
漢字	1	漢字練習①	143		/	/	○ △ ×
	2	漢字練習②	153		/	/	○ △ ×
	3	漢字練習③	163		/	/	○ △ ×
	4	漢字の読み書き①	171		/	/	○ △ ×
	5	漢字の読み書き②	180		/	/	○ △ ×

## 1 文学的文章①

## 例題 1

〈日高敏隆「春の数えかた」より〉

- (1) — 線①「こんなに寒いのに」とありますが、「ぼく」が特に寒さを感じたのはなぜですか。その理由を書いて答えなさい。

- (2) — 線②「大人ってどうしてこんなうそを平気で信じられるんだろう?」とありますが、「こんなうそ」とは具体的にどんなことを指していますか。書いて答えなさい。

- (3) この文章は何について書かれていますか。書いて答えなさい。

## 解法のポイント

- (1) **設定** 『ぼく』の子どものころの生活環境を読み取ります。第三段落に着目し、「戦時中、隙間の多い日本家で、物資が不足していたから。」という理由を読み取ります。「なぜ」と問われているので、「〜から。」とまとめます。

- (2) **内容理解** 「こんなうそ」の内容をまずつかみます。幼いころの『ぼく』は、まだ寒いのに、大人は正月を「新春」と言って「春」を祝っているため、不思議に思ったのでしょうか。以上は「正月を新春と呼んでいること。」とまとめられます。

- (3) **主題** この文章は、全体として何について述べているのかをつかみましょう。内容をまとめると、「幼いころの『ぼく』は、正月の寒い時期を『新春』と呼ぶのに抵抗を感じ、三月になって春の到来を感じていた」となりますが、主題としてまとめると、『ぼく』にとっての『春』はいつかということ。「〜」となります。

(注) トーコー＝筆者、篠田桃紅しのだとうこう。  
 棧＝横木。

〈篠田桃紅「きのうのゆくえ」より〉

5 (1) 線①「感嘆の声をあげた」とありますが、その理由を書いて答えなさい。

4 (2) 線②「私はちょっと拍子抜けした」とありますが、「私」はなぜ「拍子抜け」したのですか。その理由を、「私」のその時の状況を考えて書いて答えなさい。

4 (3) 線③「船でパナマ運河を通過しても、ムレないよう、虫もカビもつかないようにしてある」とありますが、N氏は、作品を虫やカビから守るためにどのようなことをしたのですか。書いて答えなさい。

解法のポイント

(1) 心情 傍線①の直後に「私の作品ではない。作品はまだ紙に包まれている」とあることから、「作品を保護していた杉板の包み方と香りがすばらしかったから」であることが分かります。

(2) 心情 異国で初めての個展開催で、「私」は自分の作品がどう評価されるか、緊張や不安を抱えていたのでしょう。ところが、「皆が作品ではなく、梱包に用いられた杉板にばかり気を取られていたから」、張りつめていた気がぬけるような思いを「私」は味わっています。

(3) 内容理解 N氏が梱包の際に「作品の間に杉材をあてた」のは、輸送する作品の保護という実用的な目的からだと考えられますが、結果としてはそれが思いがけない匂いを届けることになったのです。





## 2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈室生朝子「目に見えない贈り物」より〉

- 5  (1) **心情**——線①「ものずきな雑誌もあつたものだ」には、犀星のどんな気持ち（本心）が隠されていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 出版社に対してあきれられる気持ち。  
 イ 娘の能力を疑い、あやぶむ気持ち。  
 ウ 娘にチャンスが来たことを喜ぶ気持ち。  
 エ 出版社の目のつけ所に感心する気持ち。

- 3  (2) **心情**——線②「庭からそうつとのぞいていた」とありますが、このときの犀星の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 心配      イ 疑惑  
 ウ 監視      エ 期待

- 3  (3) **細部**①く④には、「目」または「手」のうちのいずれかが入ります。それぞれあてはまることばを書いて答えなさい。

①
②
③
④

- 3  (4) **細部**※に入る最も適切なことばを、本文中から三字で書き抜いて答えなさい。

--

- 3  (5) **内容理解**——線③「目に見えないもの」とは何ですか。本文中から五字で書き抜いて答えなさい。


## 1 現代仮名遣い ①

● 次の——線部を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

- ① 若き女の何とも物をばいはずして、山吹の花一枝折りて出しければ…  
 (岩手)
- ② おぼつかなくおそれてのみあて、歌をよむこと大抵にてはならず。  
 (宮城―前期)
- ③ 今日けふの雪をいかにと思ひきこえながら、何なにでふ事にさはり、その所に暮らしつる…  
 (山形)
- ④ 昼ひるよりありつる事どもをうちはじめて、よろづの事を言ひ笑ひ…  
 (秋田)
- ⑤ 人の為にあしき人は、たとひ一旦は、果報もよく、家も保てる様なれど…  
 (福島)
- ⑥ 道者の行は、善行・悪行、皆、思はくあり。  
 (茨城)
- ⑦ 木こりのきて、斧といへる物を持ちたりけるを…  
 (栃木)
- ⑧ 孔子、弟子をして、乗り物・装束・金銀・財物等を取り出だして、これをあたへき。  
 (群馬)
- ⑨ 花七日をかぎり、その後は、とひくる人も侍らじと覚えて…  
 (埼玉)
- ⑩ あさましきわざをしたれども、いひがひなしとて、荒き声をも立てず。  
 (千葉―前期)
- ⑪ 今は昔、池のほとりに蝦のあまた集まりて言ふやう、「あはれ生きとし生ける物…  
 (千葉―後期)
- ⑫ 十日。けふは、この奈半の泊りに泊まりぬ。  
 (山梨)
- ⑬ そのいそぎとて、ことにするわざもなければ、心はいそがはし。  
 (山梨)
- ⑭ 浦島太郎は、一本の松の木蔭に立ち寄り、あきれはててぞあたりける。

- ⑮ 太郎思ふやう、亀が与へしかたみの箱、あひかまへてあけさせ給ふと言ひ…  
 (長野)
- ⑯ 「…心に思はんやう、ありのままに」と御尋ねありければ…  
 (新潟)
- ⑰ 前の放出の隔子のあげられたる上に、物の光るやうに見えければ…  
 (富山)
- ⑱ 唐の太宗、即位の後、古殿にすみたまへり。  
 (石川)
- ⑲ 水戸中納言光圀殿、「いかなる者ぞ。」と問はせたまへば、知れる者有りて…  
 (福井)
- ⑳ ある人四、五人打寄り、座敷に涼みてゐたりしが…  
 (静岡)
- ㉑ ころごし深くして折りければ、さすが天もあはれと思ひ給ひけるにや…  
 (岐阜―一次)
- ㉒ さやうの所にてこそ、よろづに心づかひせらるれ。  
 (滋賀)
- ㉓ 又は思ふに従ひて口にいひ出でらるるをりもあるものなり。  
 (ただし、漢字はそのまま使用すること) (京都)
- ㉔ 片つ方は海、浜のさまも、寄せかへる浪の景色も、いみじうおもしろし。  
 (大阪―後期)
- ㉕ 執行なりける人、見てとくまわりけるに、庭の上に、所もなく花散りしきたり…  
 (兵庫)
- ㉖ 偶良匠にあひて、散られて小琴と為る。  
 (奈良)
- ㉗ あらそふべき時あらそひ、随ふべき時随ふ、これを忠とす、これを孝とす。  
 (和歌山)
- ㉘ 片桐石州君は、茶の湯の式に名だかく、つひに一流の祖とならせられ、茶器万の鑑  
 定たがふ事なし…  
 (広島)
- ㉙ 「あつばれ我もかやうにこそし侍らめ」と思ひさだめて…

□30 川の水はやうして、流れにひかれてくだる。

〈鳥取〉

□31 「山の此方へは出でながら光のいまだあらはれぬ」と申す人侍りしを…

〈山口〉

□32 一事を必ず成さんと思はば、他の事の破るるをもいたむべからず。

〈徳島〉

□33 数年のつくるひどもに朽ち損じ、あまり見苦しく、この度はとかく掛け直して…

〈香川〉

□34 日暮れたれば、山おろし荒く吹きて、にはかにさむくさへなりぬ。

〈愛媛〉

□35 狼とびかかり、耳をくはえて山中に到りぬ。

〈高知―前期〉

□36 その人のいふ言をも、心とどめてききもするを、なほ国々の詞どもを、あまねく聞きあつめなば…

〈高知―後期〉

□37 同じ様なる者に行き逢ひて問はせたまへば、母を負ひて行く由を申す。

〈福岡〉

□38 昔、此の寺のほとりに賢婦ありき。婦の名伝はらず。

(ただし、漢字はそのまま使用すること) 〈佐賀―一般〉

□39 道者の行は、善行・悪行、皆、思はくあり。

□40 この鹿、人に馴れて、悪人に近づかん時、必ず殺されん。このゆゑに打つなり。

〈長崎〉

□41 帝、月の夜笛吹き給ひけるに、その声竜の鳴くにたがはず。

〈熊本〉

□42 いと弱き心に、頭もたげて、人に紙を持たせて、苦しき心地に、からうじて書きたまふ。

〈大分〉

□43 それがし、卒爾なることを申しかけたり。いかやうにも罪におこなひ給へ。

〈鹿児島〉

## 2 現代仮名遣い ②

● 次の——線部を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

- ① 「車軸とかやにや、おそろしや」とて、御簾の内、笑ひあはれけり。  
 ② いざ子ども早く日本へ大伴の三津の浜松待ち恋ひぬらむ  
 ③ 毛利元就に徒はざりければ、囲み攻めらるる。  
 ④ さまざまおもしろう筆をふるひて書かれたりけるを、誰がしたりけん…  
 ⑤ 大小事をわきまふるまでするを、学問のきはめとは言ふなり。  
 ⑥ いかにもしるしも見えざりければ、思ひわづらひて能因法師に…  
 ⑦ 思ひかけぬありがたきことなりければ、おほきに驚かせ給ひて…  
 ⑧ 堅地に気をつくし、身汗水なして、やうやう掘りける。  
 ⑨ ものくさ太郎、あてなる女房のおまへにまゐるとて、踏みすべりて…  
 ⑩ 白き玉を貫きたるやうなるこそ…  
 ⑪ いみじうあはれにをかしけれ。  
 ⑫ 思はずに、あへなくおぼえて、始終聞くに、失なくめでたし。  
 ⑬ 心越禪師律呂の学にくはしく、徂来翁の家に舶来の琴あるよしを聞き…

〈青森(前期)〉

〈秋田(前期)〉

〈山形〉

〈福島〉

〈群馬〉

〈埼玉〉

〈千葉(前期)〉

〈千葉(後期)〉

〈福井〉

〈長野〉

〈新潟〉

〈静岡〉

⑭ 山守見て、「さあへべきことを申せ。とらせむ。」といひければ…

〈岐阜〉

⑮ 浦島太郎も、あはれと思ひ、同じ船に乗り、沖の方へ漕ぎ出す。

〈三重(前期)〉

⑯ 或人、清水へまゐりけるに、老いたる尼の行きつれたりけるが…

〈三重(後期)〉

⑰ 「別当をも払ふべし」などまでののしりて…

〈京都(前期)〉

⑱ 弘法の御かほをつやつやとまもり…

〈京都(中期)〉

⑲ 弘法あつと心づき給へば…

〈兵庫〉

⑳ 「越前房はよくき程の者な。」といひなほしたりける…

素性法師

〈岡山(特選)〉

㉑ あらたまの年たちかへる朝より待たるものはうぐひすのこゑ

〈広島〉

㉒ いはば軽き事のやうなれども、抜群の見識なくてはなるまじき事ぞかし。

〈鳥取〉

㉓ 木こる童の、暁、山へ行くといひける。

〈山口〉

㉔ 筆をはやくつかふ事、かへりて遅き様なり。

〈香川〉

㉕ 「こはいかなることぞ」と驚き慌てければ、妻のいふやう、「わらはが…

〈愛媛〉

㉖ 「めでたやめでたや。今年、我があきなひは八割上がらむよ。」といひたり。

〈高知(前期)〉

㉗ ある大衆の中に見合ひて、事の子細を問へば、「しかじか」と答へけるを…

〈高知(後期)〉

㉘ 破損せる間、湿気あがり、風露すさまじうして、玉体侵されつべし。

□29 蛇に似て、角なき物といへり。

〈佐賀〉

□30 かはらの者あざわらって…

〈佐賀(特色)〉

□31 曾参山に薪を拾ひみたるが、にはかに胸騒ぎしける程に…

〈長崎〉

□32 今の世、つけ木をもちゐるはいかんと、こざかしき人の言へるにより…

〈熊本〉

□33 一休和尚、奈良のたきぎといふ処に、をりをりはおはしましたしける。

〈鹿児島〉

□34 この翁、瘤の失せたるを見て、「この瘤取らん」といひければ…

〈沖縄〉

## 3 詩歌・古文①

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈岩手〉

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈大阪〉

3

□(1) 文中の□に入る適切なことばを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 短くて、しかも形の決まっている短歌
- イ 短くて、しかも形の決まっていない詩
- ウ 長くて、しかも形の決まっている短歌
- エ 長くて、しかも形の決まっていない詩

〈栗木京子「短歌をつくろう」より〉

類題 (短歌) 山形、富山

〈吉野弘『醉生夢詩』より〉

(1) —線①「へすぼんと海を脱ぐ魚」という表現」とありますが、この表現

から感じられることについて本文中で筆者が述べている内容を、次のように  
まとめました。 a、b に入ることばをそれぞれ本文中から書き抜い  
て答えなさい。

③ 〈海中の魚がふだんは素肌で巨大な海を着込んでいるという羨ましいような  
ことに気付き、a が感じられる。〉

③ 〈魚が全身を撓めて海を脱ぐときの、しなやかなひねりと力強さといった  
b まで感じられる。〉

a

b

④ (2) ②には、詩の表現についての筆者の考えが入ります。次から最も適切  
なものを選び、記号で答えなさい。

ア この仮定が詩の表現を変化させるために必要な仮定だと思ふ

イ この硬さが詩の表現を知的なものにすることもあると思ふ

ウ この違いが詩の表現と普通の文章表現との違いだと思ふ

エ この比較が詩の表現の偶然性をあきらかにすると思ふ 「」

⑤ (3) —線③「飛ぶことに必要な手続きをあれこれと考えている」とありますが、  
「飛ぶことに必要な手続き」とはどのようなことですか。A中のことば  
を使って、**四十字程度**で書いて答えなさい。


⑥ (4) —線④「この詩の魅力」とありますが、この詩の魅力について本文で述  
べられていることがらと内容が合うものを次から一つ選び、記号で答えな  
さい。

ア この詩は、強い飛翔願望をもっている若い人への共感を表そうとしてい



るが、空を飛びたいという欲求を表現するのに有りふれたことばを使つていないので、想像力をかきたてる作品であること。

イ この詩は、ユーモアを感じさせる表現が多く使われていて空を飛ぶことができるような気分になるが、実質は飛翔願望ではなく、その願望の奥にある自由へのあこがれを表している作品であること。

ウ この詩は、鳥のように自由に空を飛びたいという飛翔願望を他人に聞かせるのではなく、空を飛んでいる鳥に話を持ちかけるように表現されているところに、謙虚さが感じられる作品であること。

エ この詩は、人間の気持ちの中にある飛翔願望を自分本位に訴えるのではなく、丁寧な話の持ちかけかたをしているので、飛ぶことを一緒になつて考えてみようという気を起こさせる作品であること。

3 次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

A 青天や白き 五瓣の梨花  
 B  
 C  
 D  
 E  
 F

(注) 五瓣＝五枚の花びら。

厨口＝外から台所に通じる出入口。

原 石鼎  
 阿波野 青畝  
 清崎 敏郎  
 久保田 万太郎  
 細見 綾子  
 水原 秋櫻子

類題 (詩) 茨城

福島

5

(1) 群れ咲く花の姿に生き生きとした生命力が感じられ、その様子を人間にたとえて表現している俳句はどれですか。A～Fの中から一つ選び、記号で答

えなさい。

(2) 空のすがすがしさを切れ字で強調し、目の前にくっきりとした花の形を描きながら、晩春の雰囲気を表現している俳句はどれですか。A～Fの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(3) 次の文章は、A～Fの中のある俳句の鑑賞文です。この鑑賞文を読んで、あとの①、②の問いに答えなさい。

作者はこの句で、「I」という言葉を用いて、飾らない自然な心で目の前の花に向き合っている様子を表現しています。同じような時期に咲く他の花と比べ、飾り気のない愛らしい印象を受けるこの花に對して、作者がIIを感じている様子が伝わってきます。また、この句を音読すると、「I」の繰り返しが印象的で、それがIIIを生み出していることがわかります。

① I に入る最も適切なことばを、その句の中から書き抜いて答えなさい。

② II、III に入ることばの組み合わせとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア (II) 親しみ Ⅲ リズミカルな心地よさ
- イ (II) 悲しみ Ⅲ しつかりとした安定感
- ウ (II) おもしろみ Ⅲ 生き生きとした臨場感
- エ (II) なつかしさ Ⅲ みなぎるような力強さ
- オ (II) 切なさ Ⅲ しみじみとした安心感

類題 (俳句) 栃木、神奈川、高知

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈石川〉

唐の太宗、即位の後、古殿に <sup>①</sup> すみたまへり。 <sup>②</sup> 破損せる間、湿気あがり、

風露すさまじうして、 <sup>③</sup> 玉体侵されつべし。群臣造作すべき由を奏しければ、

太宗のいはく、時、 <sup>\*</sup> 農節なり。民、定めて愁あるべし。秋を待ちて造るべし。湿気に侵されば、地に受けられず、風雨に侵されば、天にかなはざるなり。

天地に背かば、身あるべからず。民を煩はさずんば、自ら、天地にかなふべし。天地にかなはば、身を侵すべからずといひて、古殿にすみたまへり。

(注) 玉体 皇帝のお体のこと。

農節 農作業に忙しい時期。

〔正法眼蔵随聞記〕より

2 ① 線①「すみたまへり」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

Blank box for answer 2-1

3 ② 線②「破損せる間」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- A 建物を修理しようとして
I 建物を壊そうとして
ウ 建物がいたんでしまつて
工 建物が新しく変わつて

4 ① だれに対して言ったのか、本文中のことばで答えなさい。

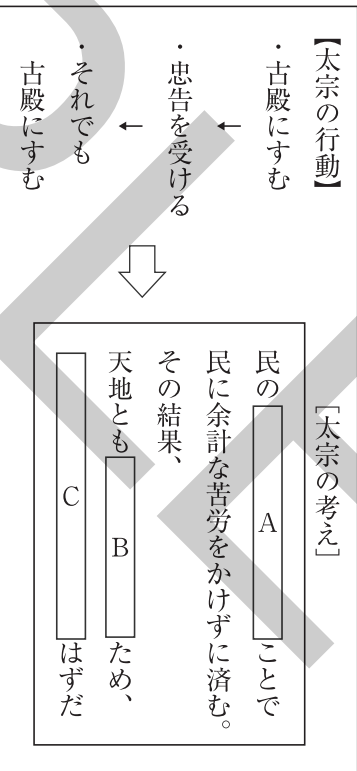
Blank box for answer 4-1

4 ② 言ったことばの最後の五字を書き抜いて答えなさい。

Blank box for answer 4-2

5 ④ この文章を読んで、太宗の行動と考えを次のようにノートにまとめました。

太宗の行動
古殿にすむ
忠告を受ける
古殿にすむ
太宗の考え
民のことで民に余計な苦勞をかけずに済む。その結果、天地とも



Blank boxes A, B, and C for note-taking.

5 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈群馬〉

昔、躬恒と聞こえし歌よみの侍りける。家に花のいみじう咲きたりけるに、大宮人むれきて、花をけうじて、日の山のはにかたぶきぬるをなん

侍り。花七日をかぎり、その後は、とひくる人も侍らじと覚えて、

とよみ侍るも、げにと覚えて、あはれに侍り。山里は花こそ宿のあるじなれと、よみけん心地して侍り。

(注) 躬恒 歌人の名前。

大宮人 宮廷に仕えている人。

〔撰集抄〕より

3  (1) — 線①「なげき侍り」とありますが、人々がなげいているのはどうしてですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

A 花が散ってしまふと花見ができなくなるから。

イ 満開の花々もいずれ色あせて散ってしまうから。

ウ 木の葉のすき間から差し込む日差しがまぶしいから。

エ 花見をもっと楽しみたいのにながれ沈むとしていてるから。

2  (2) — 線②「とひくる」を現代仮名遣いで書きなさい。  
「

7  (3) — 線③「恋しかるべき」とありますが、恋しくなるのはどうしてですか。書いて答えなさい。

6  (4) 本文の内容に合っているものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

A 花が咲くころは、人ではなく花が主役であると昔の人が思うことに対して、作者も共感している。

イ 花が咲くころでも、夕日や自然のことばかり昔の人が歌にすることに對して、作者は不満をもらしている。

ウ 花が咲くころに、山里を訪れる人がいるすばらしさを昔の人が歌にしたことに対して、作者はほめたたえている。

エ 花が咲くころでも、山里にはなかなか人が訪れないと昔の人が思うことに対して、作者はあわれみを感じている。  
「

6 次のAは『万葉集』の一部であり、Bはその解説文である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。  
〈奈良〉

A 大伴淡等謹みて状す

梧桐の日本琴一面 対馬の結石山の孫枝なり

この琴夢に娘子に化りて曰はく「余根を遙島の崇き巒に託け、幹を九陽の休き光に晡す。長く煙霞を帯びて、山川の阿に逍遙し、遠く風波を望みて、雁木の間に出入す。唯百年の後に、空しく溝壑に朽ちむことを恐るるのみ。偶良匠にあひて、散られて小琴と為る。質の籠く音の少しきを顧みず、恒に君子の左琴を希ふ」といへり。即ち歌ひて曰はく

如何にあらむ日の時にかも 声知らむ人の膝の上わが枕かむ

B 右は、大伴旅人が、対馬の木でできた琴を知人に贈る際に添えた書状の一部である。旅人は、琴が夢に少女の姿で現れてこう語ったという。

「私は対馬の山に育ち、自然の中で何をすることもなく過ごしながら、ただ百年の後むなく谷間に朽ちることを恐れていましたが、たまたまい細工師に加工され琴となりました。立派な方に愛用されたいと願っています。(歌)「いつか、私の音色を理解してくれる方のお膝の上が私の居場所となるのでしょうか」…だからあなたに贈ります、と旅人は、相手の人柄を賞賛し信頼の念を伝えたのである。

2  (1) — 線部「あひて」を現代仮名遣いに直して書きなさい。

5  (2) — 線①「根を遙島の崇き巒に託け、幹を九陽の休き光に晡す」で用いられている表現の技法を次から一つ選び、記号で答えなさい。

A 倒置 イ 対句

ウ 反復 エ 体言止め  
「

5  (3) — 線②「声知らむ人」に当たる人を、Aの中から漢字二字で書き抜いて答えなさい。

7 次の文章は、中国の故事について書かれた漢文Aと、その内容を例として用いた日本の古文Bです。二つの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈宮崎〉

A

許由 隱<sup>レ</sup>箕山<sup>ニ</sup>、無<sup>ニ</sup>盃器<sup>ニ</sup>。以<sup>テ</sup>手<sup>ヲ</sup>捧<sup>ゲ</sup>水<sup>ヲ</sup>飲<sup>ム</sup>之<sup>ヲ</sup>。  
 人 遺<sup>リ</sup>一瓢<sup>ニ</sup>。① 得<sup>レ</sup>以<sup>テ</sup>操<sup>ク</sup>飲<sup>ム</sup>。飲<sup>ム</sup>訖<sup>ニ</sup>、掛<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>木<sup>ノ</sup>上<sup>ニ</sup>。  
 風 吹<sup>キ</sup>瀝瀝<sup>トシテ</sup>有<sup>リ</sup>聲<sup>ヲ</sup>。由<sup>以</sup>為<sup>シ</sup>煩<sup>ハシト</sup>、遂<sup>ニ</sup>去<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>。

〈蒙求〉より

【書き下し文】

許由、箕山に隠れ、盃器無し。手を以て水を捧げて之を飲む。人一瓢を遣り、以て操りて飲むことを得たり。飲み訖はりて木の上に掛くるに、風吹き瀝瀝として声有り。由以て煩はしと為し、遂に之を去る。

【現代語訳】

許由は、世間を避けて箕山に隠れ暮らしていた。水を汲み入れ物を持っていないので、手で水をすくって飲んだ。ある人が見かねて、水を入れる瓢箪を一つ贈った。彼はこれで水を汲み、飲むことができた。飲み終わって、それを木の上に掛けておいたところ、風が吹いてころころという音を立てた。許由はうるさいと思い、すぐにそのまま、それを捨てた。

B

ア 人はおのれを つづまやかにし、<sup>\*</sup>奢りを退けて、財を持たず、世をむさぼらざらんぞ、<sup>\*</sup>いみじかるべき。昔より、賢き人の富めるは稀なり。  
 唐土に許由と言ひつる人は、さらに身にしたがへるたくはへもなく、水をも手して捧げて飲みけるを、見て、なりひさこといふ物を人の得させた<sup>②</sup>りければ、ある時、木の枝にかけたりけるが、風にふかれて鳴りけるを、<sup>③</sup>しかましとて捨てつ。また手に<sup>\*</sup>むすびてぞ水も飲みける。<sup>④</sup>いかばかり心のうち涼しかりけん。

〈徒然草〉より

(注) つづまやかに＝質素に。奢り＝ぜいたく。

世をむさぼ(る)＝俗世間の名譽や利益をむやみに欲しがる。

いみじ＝立派である。なりひさこ＝瓢箪。

むすぶ＝(手のひらで)すくう。

5  (1) 線①「得以操飲。」について、【書き下し文】の読み方になるように、返り点をつけなさい。送り仮名はつけてよよい。

得以操飲。

6  (2) 線②「見て」の主語として、最も適切なものを、本文中の線ア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 瓢箪を捨てた許由は、どんなにすがすがしかったことだろう。

7  (3) 線③「かしまし」の意味を、漢文Aの【現代語訳】の中から、五字以内で書き抜いて答えなさい。

.....

8  (4) 線④「いかばかり心のうち涼しかりけん」の意味として、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 瓢箪を捨てた許由は、どんなにすがすがしかったことだろう。

イ 風で鳴る瓢箪の音は、どんなに澄んで美しかったことだろう。

ウ 許由に瓢箪を贈った人は、どんなに悲しかったことだろう。

エ 許由が手ですくった水は、どんなに冷たかったことだろう。

「.....」

9  (5) 漢文Aに書かれた故事は、古文Bの中で、作者のどのような主張を述べるための例として用いられていますか。「.....という主張」という形で、分かりやすく書いて答えなさい。

.....という主張。

類題

(漢文・漢詩)青森、宮城、三重、兵庫、鳥取、山口、沖縄

# 1 文法 ①

## 例題 ①

● 次のそれぞれの文節相互の関係に——線部があてはまる文として最も適切なものをあとから選び、記号で答えなさい。

- (1) 主語・述語の関係      (2) 修飾・被修飾の関係  
 (3) 接続の関係      (4) 並立の関係  
 (5) 補助の関係      (6) 独立語
- ア バラも ユリも 咲いた。      イ 赤い 花が 咲いた。  
 ウ 春だから 咲いた。      エ 花が 咲いた。  
 オ ああ、とても きれいだ。      カ 美しく 咲いて いる。

### 解法のポイント

● **文節相互の関係** 文節相互の関係には次のような種類があります。

- (1) **〔主語・述語の関係〕**…エ  
 「何(だれ)が」に当たることばが主語、「どうする・どんなだ・何(だれ)だ」に当たることばが述語になります。
- (2) **〔修飾・被修飾の関係〕**…イ  
 「何の・どんな・いつ・どこで・どう」といった説明に当たることばが修飾語、説明されることばが被修飾語になります。
- (3) **〔接続の関係〕**…ウ  
 「～だから・～だが・～ならば」のように、文と文とを、文節と文節とをつなぐ働きをすることは接続語になります。

# 文法

## 例題 ②

- (4) **〔並立の関係〕**…ア  
 ことばどうしが対等の関係で並んでいます。
- (5) **〔補助の関係〕**…カ  
 「～して いる」の「いる」は、独立した意味を持たず、前の文節の意味を補っています。
- (6) **〔独立語〕**…オ  
 あいさつ・応答・呼びかけ・感動を表し、他の文節から独立していることばは独立語になります。

● 次のそれぞれの文の——線部の文の成分を書いて答えなさい。

- (1) 太陽が 輝く。  
 (2) 太陽が まぶしい。  
 (3) 太陽が 空で 輝く。  
 (4) 太陽が 輝き、そして、小鳥は 歌う。  
 (5) ほら、 太陽が 輝いているよ。

### 解法のポイント

● **文の成分** たとえば、「太陽が輝いている。」の「輝いている」のように、二つ以上の文節がまとまり、連文節として一つの文の成分(「輝いている」は述部)となるものもあります。

- (1) **〔主語(主部)〕**「何(だれ)が」に当たる文節や連文節。  
 (2) **〔述語(述部)〕** 主語に対して「どうする・どんなだ・何だ」に当たる文節や連文節。



(3)〔修飾語(修飾部)〕主語や述語に対して「何の・どんな・いつ・どこで  
 どう」といった説明を加えている文節や連文節。

(4)〔接続語(接続部)〕文と文とを、文節と文節とをつなぐ働きをする文節や  
 連文節。

(5)〔独立語(独立部)〕ほかの文の成分と直接には結びつかない、独立した文  
 節や連文節。

例題 3

5 次それぞれの文について、文の構造から見た場合の文の種類を書いて答  
 えなさい。

- (1) 花が 咲いた。
- (2) ぼくの 植えた 花が 咲いた。
- (3) 梅が 咲き、桜も 咲いた。

解法のポイント

● 文の種類 文は、その構造の上から次の三つに分けられます。

(1)〔単文〕主語・述語の関係が一つだけある文。例題の文では、「花が 咲い  
 た」という主語・述語の関係が一つだけあります。

(2)〔複文〕主語・述語の関係が二つ以上あり、それらが対等の関係になってい  
 ない文。例題の文では、「ぼくの 植えた」と「花が 咲いた」とが、どち  
 らも主語・述語の関係で、これらは対等の関係になっていません。

(3)〔重文〕主語・述語の関係が二つ以上あり、それらが対等の関係になってい  
 る文。例題の文では、「梅が 咲き」と「桜も 咲いた」とが、どちらも主  
 語・述語の関係で、これらは対等の関係になっています。

確認問題

4

1 文節相互の関係 次それぞれの文の——線部の文節相互の関係を、  
 あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 私は 英語も 数学も 好きだ。
- (2) 国語は 最も 好きな 教科だ。
- (3) 私は 推理小説を よく 読む。
- (4) 秋、それは 読書の 季節だ。
- (5) 晴れたから、出かけよう。
- (6) たまには 長編小説を 読んで みよう。
- (7) 土手沿いを のんびりと 歩いた。
- (8) 電車と バスの 模型を 買った。
- (9) こんにちは、お元気でしたか。
- (10) 雪だったが、外出した。
- (11) 昼から 姉は 出かけて いる。
- (12) この 料理は 安くて うまい。
- (13) 祖父の いる 場所は わからない。
- (14) 姉に そうじを 手伝って もらった。
- (15) あらかじめ 質問を 考えて おいた。

- ア 主語・述語の関係
- イ 修飾・被修飾の関係
- ウ 接続の関係
- エ 並立の関係
- オ 補助の関係
- カ 独立語

(9)	(1)
(10)	(2)
(11)	(3)
(12)	(4)
(13)	(5)
(14)	(6)
(15)	(7)
	(8)

5

2 主語

次のそれぞれの文から、文全体の主語を一文節で書き抜いて答えなさい。

- (1) 約四千五百首の歌を収めた「万葉集」は日本最古の歌集だ。
- (2) 「万葉集」の中心的な編者が大伴家持だった事はほぼ確実だ。
- (3) 「万葉がな」から生まれた「かな」が日本独自の文字となった。

(1)	
(2)	
(3)	

6

3

修飾語

次のそれぞれの文から、 のことが修飾していることばを一文節で書き抜いて答えなさい。

- (1) けがを してから  まもなく、父親には ジョギングに 代わる、新しい 趣味が できた。
- (2) 彼が  描く、風景や 人物や 静物の 絵は、それを 見る 者の心を 和ませた。
- (3) 姉は、 かつて  バスケットボールに 熱中したように、今は スノーボードに 熱中して いる。
- (4) わたしは、 明日から  まじめに 勉強する ことを、父親と 母親に 約束した。
- (5) ぼくは、 ふと  キャプテンが 体育館の 中に いない ことに 気づいた。

(4)	(1)
(5)	(2)
	(3)

4

4 文の成分

次のそれぞれの文の——線部の文の成分をあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) ぼくだって、球拾いぐらいならば できる。
- (2) 必死で 走ったが、とうとう 追いつけなかった。
- (3) どうして そんな ことを 言うのか。
- (4) 彼の 部屋は 広くて きれいだ。
- (5) 家には 二ひきの ねこが いる。
- (6) 人類の 平和、それが 多くの 望みだ。
- (7) 彼女は とても 親切な 人だ。
- (8) 校庭に 大きな 木が 二本 ある。

- ア 主部 (語)
- イ 述部 (語)
- ウ 修飾部 (語)
- エ 接続部 (語)
- オ 独立部 (語)

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)

6

5

5 文の種類

次のそれぞれの文の種類をあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 私たちは、先生のおっしゃる事をよく聞いた。
- (2) 山下先生は静かに話され、黒田先生は熱っぽく話された。
- (3) 話を聞いていた私たちは、深い感動を覚えた。
- (4) 目を輝かせている者もいたし、涙を浮かべている者もいた。
- (5) 時がたっても、私たちはその話を忘れなかった。

- ア 単文
- イ 複文
- ウ 重文

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)

練習問題

1 次のA・Bの文について、あとの問いに答えなさい。

A 小田原と 熱海との 間に 軽便鉄道を 敷設する 工事が 始まったのは 良平の 八つの 年だった。

B 良平は 毎日 村はずれへ その 工事を 見物に 行った。

2 (1) Aの文の「小田原と」と「熱海との」の文節相互の関係を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 主語・述語の関係
- イ 修飾・被修飾の関係
- ウ 接続の関係
- エ 並立の関係
- オ 補助の関係
- カ 独立語

4 (2) 文の成分に分けた場合、Aの文の主部を文中から書き抜いて答えなさい。

A
B

4 (3) Bの文の①主語と②述語を、それぞれ文中から書き抜いて答えなさい。

①
②

8 (4) AとBの文の種類を漢字で書いて答えなさい。

A
B

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

A この かばんは、安くて、頑丈だ。  
 B 電話して いたので、物音に 気づかなかった。  
 C たくさんの 果物が 店先に 並ぶ。

Aの文の、「安くて」という文節と、「頑丈だ」という文節とは、文節相互の関係で言えば、①の関係にあるが、文の成分としては、二つの文節がひとまとまりの連文節となつて、Iとなつている。

Bの文の、「電話して」という文節と、「いたので」という文節とは、文節相互の関係で言えば、②の関係にあるが、文の成分としては、二つの文節がひとまとまりの連文節となつて、IIとなつている。

Cの文の、「たくさんの」という文節と、「果物が」という文節とは、文節相互の関係で言えば、③の関係にあるが、文の成分としては、二つの文節がひとまとまりの連文節となつて、IIIとなつている。

5 (1) ①②③に入る最も適切なことばを、それぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- ア 主語・述語
- イ 修飾・被修飾
- ウ 接続
- エ 並立
- オ 補助

①
②
③

5 (2) IⅡⅢに入る最も適切なことばを、それぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- ア 主部
- イ 述部
- ウ 修飾部
- エ 接続部
- オ 独立部

I
Ⅱ
Ⅲ



# 1 スピーチなどの原稿を書く

あるテーマについて、「スピーチをする」という前提で文章を作成する練習です。

スピーチ原稿を作成するときには、ふつうの作文と違い、まず、「だれに対して話すのか」「どのぐらいの長さで話すのか」という形式を考えなくてはなりません。作文してから、実際に声に出して読むことを想定しながら読み直すとよいでしょう。

聞き手は耳でのみこちらの伝える内容を理解するのですから、どのようなしたら相手に分かりやすく伝わるのかを工夫する必要があります。

## ● 作文のポイント ●

- スピーチをするときの環境（だれに話すのか・どのぐらいの時間があるのか）が与えられている場合は、原稿にそれを反映させる。
- テーマをしばり、自分が何を話そうとしているのか、相手に分かるようにする。
- 聞き手が耳で聞いたときに違和感がないようなことばを選ぶようにする。難しい熟語や、誤解しやすい同音異義語などは避けたほうがよい。

## ■ 例題 ■

中学校へ入学してくる小学校六年生を対象に行われる説明会で、あなたの中学校の行事の一つについて、あなたがそのよさを紹介することになった。次の注意にしたがって紹介原稿を書きなさい。  
(滋賀)

- ★ 文章の中に、紹介する行事名を入れて書くこと。
- ★ 題や、「これから〜についての紹介を……。」などの初めと終わりのあいさつを除いて書くこと。
- ★ 百字以上、百四十字以内で書くこと。

メモ

① 紹介したい行事

私たちの中学校には、〔 〕月頃、〔 〕という行事があります。私はとてもその行事が好きです。

② その行事についての説明

その行事の目的は、〔 〕  
〔 〕というものです。

③ 自分がその行事を好きな理由

私がこの行事を好きな理由は、〔 〕  
〔 〕  
私は、この行事で、〔 〕  
〔 〕  
という経験をしました。それは今でも忘れられない思い出です。

④ まとめ

みなさんも、きっと〔 〕という経験ができると思います。一緒に楽しい思い出を作りましょう。

⑤ ①～④のまとめ(字数は自由です。内容を補足しながらまとめよう)

私たちの中学校には、

私がこの行事を好きな理由は、

### 実践問題1

「中学校生活の魅力と厳しさ」について、四月に中学校に入学する、現在の小学六年生に対して説明しなさい。ただし、次の指示に従って書くこと。

(佐賀)

- ★ あなた自身の体験を含めて書くこと。
- ★ 字数は、百四十一字以上、百八十字以内で書くこと。

メモ

### 実践問題2

あなたの住む地域（県や市町村など）の良さをラジオで全国に紹介することになりました。次の指示に従って百字以上百五十字以内の放送用の原稿にまとめなさい。

(島根)

- ★ 放送を聞いた人が、あなたの住む地域のことをもっと知りたい、あるいはその地域に行ってみたいと思うような原稿にすること。
- ★ あなたの住む地域の良いところを具体的に取り上げて書くこと。
- ★ 放送用の原稿として、適切な言葉つかいをすること。

メモ

### 実戦問題 3

あなたは、「これまでの生活の中で最も印象に残ったこと」について、クラス全員の前で一分間スピーチをすることになりました。

あとの条件にしたがってスピーチの原稿を書きなさい。  
(福島)

- ★ 二段落構成とすること。
- ★ 前段では、最も印象に残ったことについて具体的に書き、後段では、そのことに対するあなたの思いや考えを書くこと。
- ★ 全体を百五十文字以上、二百字以内でまとめること。

メモ

### 実戦問題 4

国語の授業で、「心に残っている料理」をテーマにして、簡単なスピーチをすることになりました。あとの条件に従ってスピーチをするための原稿を書きなさい。

ただし、文末は、「です」「ます」調で書くこと。  
(鹿児島)

- ★ 三段落構成とすること。
- ★ 第一段落は、次の《 》内の一文とし、料理名がわかるように、( )内に適当な語句を書くこと。  
《私の心に残っている料理は ( ) です。》
- ★ 第二段落には、その料理がなぜ心に残っているのかを具体的に書くこと。
- ★ 第三段落には、その料理を通して感じたことや思ったことを具体的に書くこと。
- ★ 全体を百五十文字以上、二百字以内でまとめること。

メモ

評価
----

アドバイス

15

10

5

15

10

5

作文

題

氏名

〈スピーチなどの原稿を書く〉

**実戦問題 1**

日	月
---	---